

技能伝承のエース

～ 全技連マイスターが活動開始 ～

全国技能士会連合会

1. ものづくりは日本人のお家芸

古来、ものづくりは日本人の特技であり、持ち味であった。

それは、日本人を語るときの代名詞ともなり、これまでの日本の産業の基盤となり、また、日本人の豊かな生活を支える機軸となっていた。いわば、日本の重要な資産であり、文化といっても過言ではない。そのものづくりを確かなものとして担っているのが日本人特有の“技能”である。

更に、「ものづくりは人づくりに通ずる」という考え方、理念があるとおり、ものづくりに励むことによって日本人の人格が形成されてきたという歴史があると言われている。

2. 技能の空洞化

このように、日本そして日本人にとってかけがえの無い技能・ものづくりが、近年、特にバブル経済期に至って社会から軽視される風潮が生じてきた。それと歩調を合わせるかのように、若者のものづくり離れや製造現場の海外移転に伴い、技能・ものづくりの空洞化が懸念されるようになってきた。

今日の日本社会全体に見受けられるモラル（倫理観）の欠落や往年の元気が失われつつある現象は、ものづくりを軽視し、日本人がものづくりに親しむ機会を手放したことと決して無縁ではないように思われる。

こうした状況の中であって、昨今、いわゆる“2007年問題”が出てきた。戦後のベビーブーム時代に誕生した“団塊の世代”が、大挙して日本の経済社会から引退する時期を迎え、技能・ものづくりに空洞化をもたらす危機が生じている。そのため、若者への技能伝承と広く社会一般が技能・ものづくりに関心を高めて、ものづくりに親しむ環境づくりをするが国家的な命題となってきた。

3. ものづくり立国の復権

しかしながら、このような経過の中で、最近、技能・ものづくりに対する社会の関心が高まりつつあり、ものづくりに追い風が吹き始めたように実感している。各種の技能競技大会や全国各地で開催される技能祭・ものづくりイベントは、次第に活性化してきているし、小・中学校でのものづくり体験教室は、全国的に拡大基調で展開中である。

2007年秋には、静岡県で“2007年ユニバーサル技能五輪国際大会”として、世界の青年が競い合う「技能五輪国際大会」と障害者が技を競う「国際アビリンピック」が同時に開催されるという史上初の企画により、大きな話題性を持つ一大イベントの準備が進められている。

また、国家検定の技能検定試験の受検者数は、ここ数年微減傾向で推移してきたが、実務経験年数の短縮等受検要件の緩和により、現在は増勢基調になっている。

工業高校では、在学中に3級または2級の技能検定試験に合格し、技能士資格を取得して就

職活動に活用したり、工業大学でも社会人になるに当たってのパスポートとして技能検定試験にチャレンジするケースが増えてきている。

一方、マスコミ報道をみると、“技”や“匠”のテーマを盛んに採用するようになってきたし、消費生活の面でも製作物（商品）の質の安全、安心を求める傾向が強まってきた。いわゆる本モノ志向の高まりである。

これら一連の現象を通じて「ものづくり立国の復権」を図ることこそが日本の本来のあるべき姿を取り戻すこととなり、それが日本人を元気づける源泉であるとの共通認識が形成されつ

表1 全技連マイスター認定者数(職種別)

NO	職種	合計	NO	職種	合計
1	婦人子供服製造	40	23	樹脂接着剤注入施工	1
2	紳士服製造	15	24	ブロック建築	1
3	和裁	64	25	型枠施工	2
4	染色	1	26	鉄筋施工	1
5	貴金属装身具製作	11	27	タイル張り	9
6	調理(日本料理)	73	28	ガラス施工	5
	調理(西洋料理)	2	29	サッシ施工	1
	調理(中国料理)	1	30	畳製作	11
7	菓子製造	1	31	配管	15
8	酒造	1	32	園芸装飾	2
9	表装	34	33	造園	48
10	家具製作	3	34	冷凍空気調和機器施工	2
11	寝具製作	18	35	建具製作	11
12	印章彫刻	18	36	帆布製品製造	1
13	フラワー装飾	10	37	広告美術仕上げ	10
14	石材施工	27	38	陶磁器製造	2
15	建築大工	67	39	写真	2
16	とび	4	40	紙器・段ボール箱製造	1
17	内装仕上げ施工	13	41	機械加工	3
18	建築板金	17	42	鋳造	1
19	かわらぶき	14	43	鉄工	1
20	左官	16	44	電子機器組立て	1
21	塗装	12	45	半導体製品製造	1
22	防水施工	3	合 計		597

つあるように見受けらる。

折しも、政府においては、平成17年度から「ものづくり立国推進政策」に取り組み、①技能・ものづくりに対する社会一般の関心を高め、②若者への技能伝承を実施することを中核として積極的な施策が推進されている。

4. 全技連マイスターの出番

私ども社団法人全国技能士会連合会(全技連)は、技能士団体及び技能士の全国団体として「技能士の地位の向上」と「ものづくりが尊重される社会」の実現に向けて事業活動を実施している。その中で、最も重要視しているものは、全技連マイスター事業である。

この事業は、次代のものづくりを担う若者や後継者への技能伝承について高い志をもつ優れ

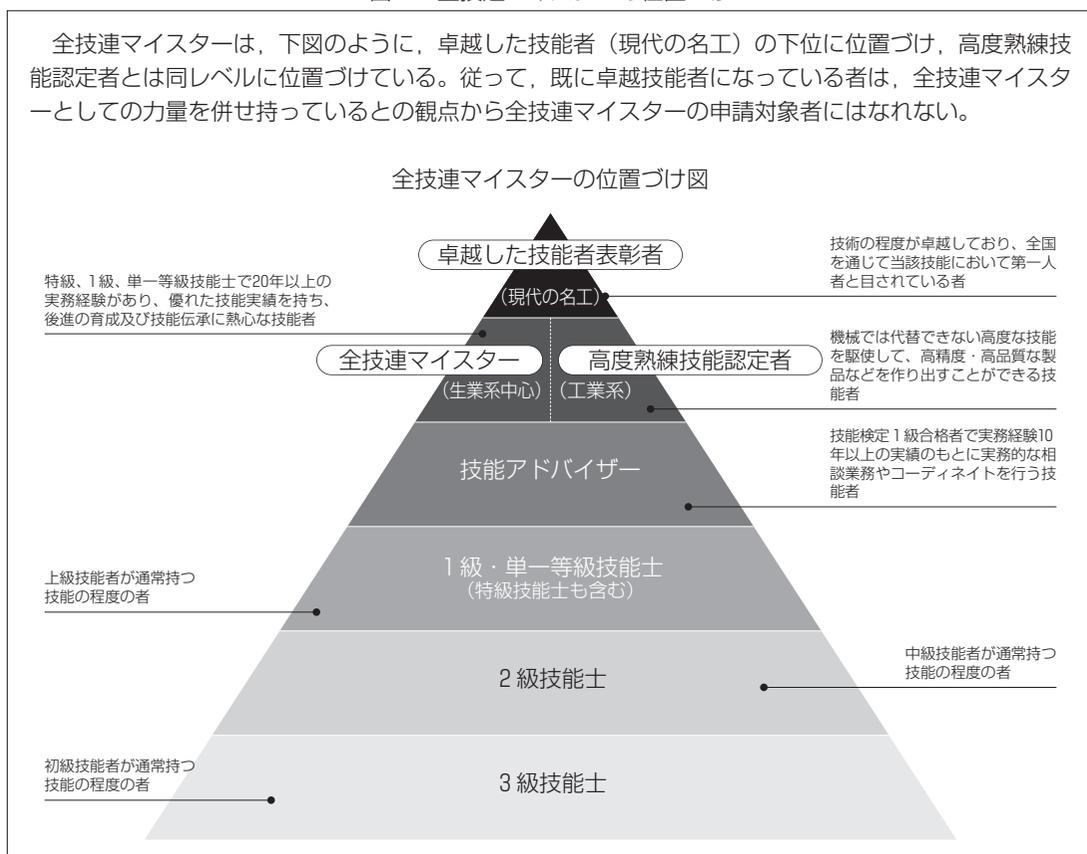
た技能士を、毎年1回、全技連会長が「全技連マイスター」として認定し、その称号のもとに、諸活動をしていただく事業である。平成15年度に5職種の98人からスタートし、4回目の平成18年度までの累計は、47職種・597人となっている。(表1)

全技連マイスターは、技能士が所属している各技能士団体からの推薦に基づき選考するが、書類選考(第一次選考)の際には、「技能・ものづくりに関する有識者の会議」のご意見を伺っている。なお、工業高等学校長会事務局からも、委員の一人としてご参加いただき、貴重なご意見を述べていただいている。

この全技連マイスターは、実務経験20年以上の特級、1級、又は単一等級の技能士で、長年にわたって培った優れた技と豊かな知識・経験

図1 全技連マイスターの位置づけ

全技連マイスターは、下図のように、卓越した技能者(現代の名工)の下位に位置づけ、高度熟練技能認定者とは同レベルに位置づけている。従って、既に卓越技能者になっている者は、全技連マイスターとしての力量を併せ持っているとの観点から全技連マイスターの申請対象者にはなれない。



の持ち主で、原則として45歳以上65歳未満の技能士の中から選考される。(図1)

全技連マイスターの基本的な使命と役割は、今日の日本にとっての重要な課題である若者への技能伝承である。しかしながら、それにとどまらず、全国の技能士の代表として、技能士の社会的評価を高めるとともに、ものづくりに対する社会一般の関心を大きくしていくための諸活動に積極的に取り組んでいって欲しいと期待している。

世は、まさに、全技連マイスターの出番であると言えるが、現在、全技連マイスターは、教育現場での指導をはじめ、多様な活動をしている。

5. 全技連マイスター会の誕生

これらの活動は、全技連マイスターが個別に実施しているものであり、組織的な推進体制が存在していなかった。そこで、全技連マイスタ

ー活動をより実効性を高めるよう本格化する必要性が生じ、全国の全技連マイスターが結集し、全技連マイスターの団体を設立しようとの気運が全国津々浦々から高まってきた。その結果、去る7月20日に待望の「全技連マイスター会」が発足したのである。

全技連マイスター会は、相互の経験交流と情報交換を図り、研鑽の場を設けるとともに、真に成果につながる実効性のある事業を展開し、全技連マイスターの活動母体として機能させようとするものである。

平成18年度は、発足間もないことから、具体的な事業活動に向けての組織体制の整備をはじめとした基盤づくりが中心となるが、できるだけ早期に、本格的な店開きをする方向で準備、検討が進められている。

全技連としては、全技連マイスター会に全面的に協力し、今後の事業活動が所期の目的どおり、展開されることを期待している。(表2)

表2 全技連マイスター会設立趣意書

ものづくりは、日本文化の源泉であり、日本存立の基盤である。また、ものづくりを支える技能は、日本人が共有する貴重な資産である。

しかしながら、近年、ものづくりを軽視する社会の風潮と相まって若者のものづくり離れやものづくり現場の海外移転、更には急激な少子高齢化に伴い技能の空洞化が顕在化し、日本の将来に不安と陰りをもたらしてきた。

このような事態を直視し、懸案の解決を図ることは時代の急務であり、それなくしては日本の社会に本来の元気と明るさを取り戻すことは不可能と信ずる。

今こそ、我々全技連マイスターは、その使命と役割をかみしめ、①ものづくりの次代を担う若者や後継者に対し、長年にわたって培った技能と豊富な経験の確実な伝承と②ものづくりとものづくりに励む者が正当に評価される社会の実現を目指し、果敢に行動を開始する必要があると痛感している。

ここに、全国の全技連マイスターが結集し、相互の経験交流と情報の共有を図り、研さんの場とするとともに成果につながる真に実効性のある活動を推進し、展開を図る母体として、全技連マイスター会を設立することとした。

平成18年7月20日

全技連マイスター会 (仮称)
世 話 人 会